

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995

2015~2016年度 No.193

2月 月報

那須クラブ会長 主題
拓こう 築こう ワイズの世界

強調月間：TOF (断食の時)



那須ワイズメンズクラブ



1月例会(新年例会) 1月23日

2015~2016年度 主題
 国際会長：(IP) Wichian Boonmapajorn (タイ)
 「信念のあるミッション」
 アジア地域会長：(AP) Edward K.W. Ong(シンガポール)
 「愛をもって奉仕をしよう」
 東日本区理事：(RD) 渡辺 隆 (甲府)
 「原点に立って、未来へステップ」
 北東部長：中川 典幸 (仙台)
 「今と原点を融合して未来へ」-楽しく改革・笑って行動-

クラブ役員 事務局
 会長：田 村 修 也
 副会長：村 田 榮
 河 野 順 子
 書記：荒 井 浩 元
 会計：鈴 木 保 江
 担当主事：荒 井 浩 元
 プリテン：田 村・村 田

1月例会データー (出席率：67%)
在籍者 6名
例会出席者 4名 メネット 2名

今月の聖句
「大水も愛を消すことはできない。洪水もそれを押し流すことはできない。愛を支配しようと、財宝などを差し出す人があれば、その人は必ずさげすまされる。」

雅歌8：7

東京目黒クラブ 那須クラブ
2月 Happy Birthday
なし 2/12 村田 榮メン

巻 頭 言

河野 順子

目標は50%クリアしたい今年の決意

新年早々の新聞文化欄に「ほめる」ことの大切さが載っていた。

あなたもなれる『ほめ達』は、価値発見の達人、「『ほめ達』でコミュニケーション力が一気に上がります」「『ほめ達』検定で生き活きとした家庭や職場に」のキャッチフレーズでほめる達人検定があると知りました。

私にとってこれほど難しい課題はないと思いつつも憧れてはいます。自分にも他者にも「ほめる」ことができたらいと思っています。しかし、日常生活ではこれと裏腹に自己嫌悪、叱責、叱咤激励が日本の美的なことと思っただけで生活でありました。自分を認めて欲しい欲求は誰もがいますが、マイナス言葉で発奮してもらうことしか経験がなかったのかもしれませんが、時代が違います。もう私の経験は化石です。そして、自分がほめられると歯がゆいけど悪い気はしないことも経験しました。ほめ達協会は言っています。『同じ仕事をするのに叱られながらするのと、ほめられるのとでは結果に違いがあるかどうか統計を取ったそうです。「よくやってるね」とほめられ励まされた方がはるかに良い結果が出たのです。「もっとはやく!」「なにやってるの、しっかりやりなさい」と叱咤激励されると、怖くから一生懸命やっけて良くなるようになると思われがちですが、実際に叱られて大きく成長していける人は多くないそうです」と。私と仕事をした人や子供にごめんなさいです。

褒めるのが難しい理由は、①私たちのしていることの多くは、自己中心や虚栄から出ていることが多い。②自己中心の心は、いつでも自分より上か下かで相手を見てしまうからだと思います。どうしたらほめることができるか(ここが大事!)。①自分のことだけでなく、他の人のことも顧みる。②本当の意味で相手のことをおもうことが必要だと思います。難しい。私は、ほめる技術7つのコツからやってみることにします。

1. 行動を具体的にほめる
2. 期間を空けず、早めにほめる
3. 余計な言葉を付け加えない
4. 最適な場所でほめる
5. 絶対的な評価でほめる
6. 第三者を活用する

7. 心からほめる

「すごい」「さすが」「すばらしい」女性にはもう一言「すてき!」でがんばります。

1月例会(新年例会)

日時: 1月22日(金)午後6時~午後8時

場所: 西那須野 ブレッシング

参加者: 田村会長、村田副会長、河野副会長、荒井の各メン、メネット: 田村、村田、合計: 6名

1月22日(金)午後6時より、雪の残る西那須野の創作料理ブレッシングにて1月(新年)例会が開催されました。美味しい食事をいただきながらメンバー一人ひとりから今年度の抱負などを語りあった。今年度も健康に留意しながら、のんびりと、他者をほめて自分が成長していきたいと願った例会でした。又、那須YMCAの今後の活動の方向と那須ワイズメンズクラブのメンバー獲得のための方策について議論が盛り上がった例会でした。次の機会には、とちぎYMCAの総主事、ユースリーダー等を囲み那須YMCAの今後の方向性を探る会を持ちたいとの意見も出された。

シイタケ昆布の販売についても話し合った。

1月役員会報告

日時: 1月15日(金) 18:30~

場所: ココス西那須野乃木店

出席者: 田村会長、村田副会長、荒井書記、田村メネット

協議事項

1. 1月例会について

1月22日(金)午後6:00~。ブレッシングで開催。会費は3,500円程度。司会は田村会長。内容は新年の抱負を語る。

2. 2月例会(地域奉仕講演会)について

2月26日(金)午後6時~。西那須野教会。講師:河野順子栃木県看護協会会長(那須クラブ副会長)。演題「ひと事ではない認知症」。チラシ作成:村田。司会:村田。会費:500円。夕食準備:荒井。ユースリーダーにも呼び掛ける。

3. 2役員会について

2月4日(金)午後6時30分~、ココス西那須野乃木店。

5. ブリテンの内容について

西那須野幼稚園、アジア学院で掲載をする。巻頭言は、河野。

6. シイタケ昆布の販売 那須YMCAの活動と

那須クラブの資金獲得のために販売を始める。

7. 那須YMCAとしての今後の活動に報告と相談・懇談をした。(2月の役員会に提出)

その他

- ・半年報提出 期限1月10日 済
- ・後期会費納入 期限2月15日
- ・会費納入上状況の確認
- ・メンバーの入会日の確認 済
- ・3月例会の予定、3月25日(金)ユースリーダーによる報告会。

旧西那須野(那須西原)の緑と水(34回)

田村修也

明治15年2月には、大田原宿西方の大山 巖さんの大山農場に隣接して、に3つの開墾が始められました。鈴木義達他10名による原野30町歩、細小路孫八他5名による原野40町歩、そして成田久八による28町歩です。この3つの開墾は、後に渡辺國武が買収して、長地開墾(渡辺農場)として再出発しました。この農場管理者に派遣されたのが岩本末吉という方です。

西那須野教会史に初めて登場するのが、明治34年のことです。「内海牧師在任中の、明治34年、大田原において、東京連回が開かれた。その頃大田原には、同地渡辺開墾管理者、岩本末吉が居り、大田原町民中、重きをなしていた篤信の一家であった」と田嶋 董さんは書いています。

岩本さんは長野県から上京して、同じ長野県出身の大蔵大臣渡辺國武子爵宅に書生としていた時に、鳥居坂教会で洗礼を受けました。その後、大田原に渡辺開墾が設立され。信頼の厚い岩本末吉さんがその管理人として派遣されて来たのでした。渡辺國武は諏訪高島藩士の家に生まれ、藩校長善館で学び、その後同じ信州の佐久間象山に師事しようとしたのですが、暗殺されたため、江戸藩邸に勤務しながらフランス語などを学びました。明治元年、京都御所の警備のため藩主諏訪忠礼に従って上洛します。たまたま國武が門の護衛にあっていた時に、大久保利通が鑑札なしで御所に入ろうとしたことを拒否したことが機縁となって、その勤務忠実ぶりで目をかけられるようになったそうです。

明治4年廃藩置県のあと、兄の千秋と共に大久保利通に呼び出されて、民部省勤務となり、明治7年には大蔵大臣大隈重信、租税頭松方正義、地租改正局総裁大久保利通のもとで、地租改正に取

り組みました。そして第2次伊藤博文内閣の大蔵大臣、逓信大臣、第4次伊藤内閣の大蔵大臣を歴任しました。明治21年に大蔵次官になっていますから、この頃に渡辺農場(長地農場)は成立したものと思われます。兄の千秋は伯爵、國武は子爵です。

岩本さんは、地域にも大きな貢献をいたしました。戊辰戦争で荒廃した大田原城址は渡辺農場の所有地となりましたが、その後大田原市へ寄贈されています。今は城址公園になっています。また、現在の大田原市役所、鶯谷公園、前大田原市図書館敷地は岩本さんが所有地を提供したものです。ご子息の岩本武次郎さん、長女のノブさんは西那須野教会の会員でした。もう既に天に召されており、ノブさんのご主人の亨さんは、教会員ではありませんでしたが、ご夫人のノブさんの礼拝出席の送迎をいつもなさっておりました。臨終直前に、ご本人の希望で、病床洗礼を受けられ、ご家族と信仰を共にして召されて参りました。牧師夫妻と私、ノブ夫人が立ち合い洗礼式、聖餐式を執行致しました。告別式の日、前夜からの雪で一面の銀世界でした。

岩本末吉さんは、小作人の自作農化にも大変ご尽力され、自作農化された農民の方々の感謝の大きな顕彰碑が、大田原市役所の隣接地、西側にある成田山の境内地に建てられています。これらが、大田原市史に記載されています。また田嶋董原著の西那須野町史には「大田原の細小路、鈴木、成田の開墾地は明治20年代に長野出身の子爵渡辺國武に売り渡され、長地開墾と呼び、岩本末吉が管理の任に当たった。昭和12年には小作農家45戸に達した。昭和22年の農地解放によって全部小作民の所有地に帰し、そのほか所有していた旧大田原城址は大田原市に寄付して今は見事な公園となり無辺祠公園と呼ばれている」と書かれてあります。以下次号へ

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
園長 福本光夫

「平和を実現する人々は、幸いである、

その人たちは神の子と呼ばれる」

(聖書 マタイによる福音書5:9)

昨年は保護者の皆様には大変お世話になりありがとうございました。本年も子ども達の健やかな

成長の為にスタッフ一同努力しますので、宜しく
お願い申し上げます。

さて、2014年のクリスマスにカトリックの
フランシスコローマ法王は「本当に、今年のクリ
スマスは極めて多くの涙に暮れている」と述べた。
また、2015年のクリスマス前のミサでは、「各
地で戦争が続いています。世界は飢え、焼け焦げ、
混沌へと向かっているのです。もはやクリスマス
のお祝いなど、今年で最後になりそうです」との
報道がありました。私たちが見聞きするテレビや
SNS、メディアには、毎日のようにその現実が
伝えられている。私が少年時代、科学技術が進歩
し、国境も無くなり、人類は地球市民として幸せ
になると思い描いていた夢とは全く異なる現実で
ある。

今年のクリスマス献金の贈呈式の際、那須塩原
市社会福祉協議会、大田原市社会福祉協議会の
方々より、この地域にも満足に食べることが困難
なご家庭が増えてきている現実を教えてください
ました。ちょっと前まで、飽食日本、物の豊かな日本
と言われたのが嘘のようだ。経済格差がかなり進
んでいる。3.11の被災者の方たちのなかで、5年
目の新年を仮設住宅で迎えた方々も少なくない。
私も楽しいクリスマスや新年からほど遠い気持ち
です。保育園は社会福祉法人格をもっています。
更にこの地域の為にできるあらたなサービスを模
索する一年の始まりです。

ところで、1月17日は阪神・淡路大震災のあ
った日です。私もその年の3月の数日間、日本青
年会議所の現地本部の西宮商工会議所の会議室に
寝泊まりしながら、全国から毎日70～80人來
るボランティアのメンバーの仕事の割り振り、救
援品のチラシの配布、借りたトラックを隣県に戻
したり等を行いました。最後の日は大阪府の私
立幼稚園連合会青年部の人たちが炊き出しをする
小学校に特別参加してきました。震災後2ヶ月間
経ったとはいえ、行く途中の家々は崩壊し、人は
おらず、遺体はどこどこで預かっていますとの大
きな張り紙があったり、キャンプ用のテントが張
ってあったり、まだ被災して数日という感じでした。
住む場所を失い、多くの被災された方が小学
校で避難生活をされていました。炊き出しのうど
んの片づけを終えて帰ろうすると、あるおじい
さんが私に「ありがとう」と大きな声をかけてくれ
ました。家も、普通の生活も失った困難の避難所
生活が2ヶ月間も続くなかで人生の晩年を過ごし
ているおじいさんの笑顔の「ありがとう」に、返

ってこちらが元気づけられて涙が出そうになりまし
た。人はお互いの持つモノを分かち合うことが、
大切であることを体験する機会が与えられました。
(「しらゆり2016. 1. 8号」より)

今後の予定

・ 2月役員会

2月5日(金) 午後6時30分～
場所：ココス西那須野乃木店
内容：2月例会、3月予定の確認、ブリテンの発
行等。

・ 2月例会(公開講演会・CS活動)

日時：2月26日(金) 午後6時～
場所：西那須野教会
講師：河野順子栃木県看護協会会長
那須クラブ副会長
演題：ひと事でない認知症
食事：6:00～6:30
講演・質疑：6:40～8:00

・ 3月役員会

日時：3月4日(金) 午後6時30分～
場所：ココス西那須野乃木店
内容：3月例会、4月例会、3月予定の確認、ブ
リテンの発行等。

・ 3月例会

日時：3月25日(金) 午後6時～
場所：西那須野教会
内容：ユースリーダーの報告会(予定)

・ 東京目黒クラブの予定

2月例会：2月10日(水) 午後1時30分～
3月例会：3月9日(水) 午後1時30分～

アジア学院だより

アメリカからの大学生たちとの1月

アジア学院 アジア農村指導者養成専門学校
校長 荒川 朋子

普段のアジア学院は4月から12月まで9ヶ月
間の研修を終えると、静まり返ります。3月の末
に次年度の新しい学生たちが入国するまでの3ヶ
月間は、外国人職員のほとんどは交代で休みを取
って母国に帰り、日本人の職員の中には長期休暇

を取って卒業生に会いに行く者もいます。ところが昨年と今年の1月はアジア学院のキャンパスはととも賑やかでした。

正月が明けて間もなくから、アメリカ、ミネソタ州の St.Olaf 大学（ノルウェーからの移民によって創設されたルーテル系の120年の歴史を持つリベラルアーツの大学）から教師3名を含む31名がアジア学院に1ヶ月滞在しました。「アジアの持続可能性」と題したコースで、アジア学院を拠点に、コミュニティ、効率性、エネルギー、農業、食べもの、公害、リサイクルといったテーマで色々な課題に取り組みました。普段のアジア学院の研修スタイルに則って、朝は7時のラジオ体操から始まり、フードライフ作業（農場、キッチンなどでの食料自給のための様々な仕事）、朝の集会、夜はナイトパトロールも参加してもらいました。私たちが途上国からの農村リーダーたちに行う、足尾鉍毒事件の学習、有機農業の担い手を養成する学校への訪問（帰農志塾 那須烏山市）なども行いました。また昨年に行くことができなかった、福島の実地訪問も今年に行くことができ、私も同行して参りました。St. Olaf 大学の先生たちは、若く柔軟な考えをもった大学生たちに、今何を問題とし、何を考えてもらうかということを終始考えており、多くの読みものや書きものの課題を出し、鋭い質問を学生たちに浴びせ、沢山のディスカッションをさせていました。アメリカという国の次世代を担う人間として、責任をもって世界の問題を自分の問題として考え、正しい選択のできる人間を養成していかなければならないという先生たちの熱い思いにしばしば感動させられました。またそれに応えようと、懸命に課題をこなし、議論に積極的に参加する学生たちの態度にも感銘を受けました。アジア学院の普段の学生たちとは年齢も、背景も全く違いますが、世界をよりよい場所にしていかなければいけないという責任感に目覚めた人間の姿には、共通して美しいものがあります。目は輝き、エネルギーに溢れています。こういう若者が育っていることに、また大きな希望と力を与えられました。

東京目黒クラブ1月例会訪問報告

村田 榮

1月13日（水）午後1時30分からの東京目黒クラブの例会にメネットともに出席してきました。メンバー、ビジター、ゲストを含めて13名

の参加がありました。今月は、モンゴル・ウランバートルにワイズを設立に携われた、東京武蔵野多摩クラブの会長宮内友弥さんが、パワーポイントを使い「モンゴルのYMCAとワイズメンズクラブについて」と題しお話があった。氏のYMCA、ワイズとの出会いのお話から始まり、なぜウランバートルワイズメンズクラブのスポンサークラブになったかのお話があり、現在のモンゴルとウランバートルワイズの現状についてのお話を伺った。モンゴルという国に行ってみたいと感じたひと時でした。又、那須クラブより「シイタケ昆布」を持って行き販売・資金作りに協力いただきました。

会計よりのお願い

ワイズの会費の納入をお願いします。